

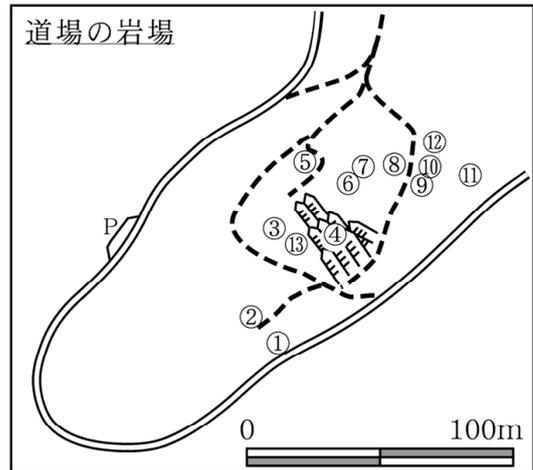
# 鹿児島 ROCK NEWS No.5

鹿児島唯一のロッククライミング情報誌（不定期発行・無料）

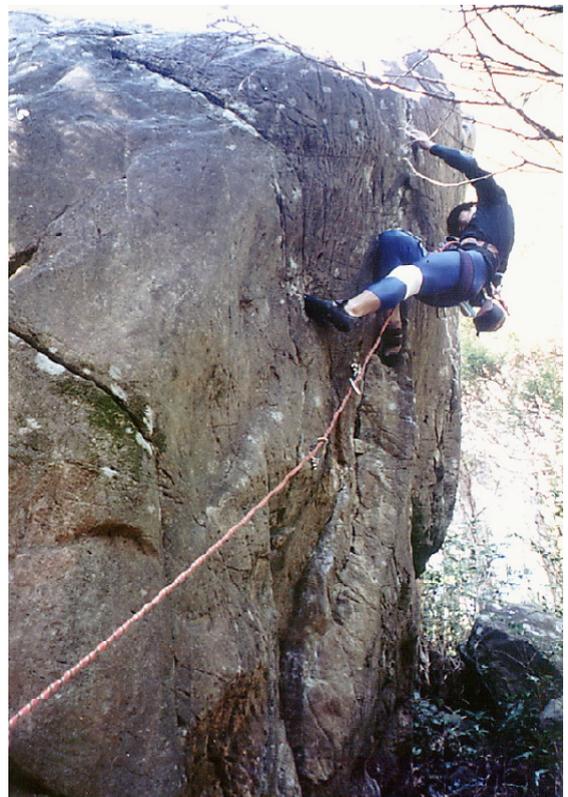
カラー版(PDF)はネット配信 [http://homepage.mac.com/hyam2/Climbing\\_Guide/](http://homepage.mac.com/hyam2/Climbing_Guide/)

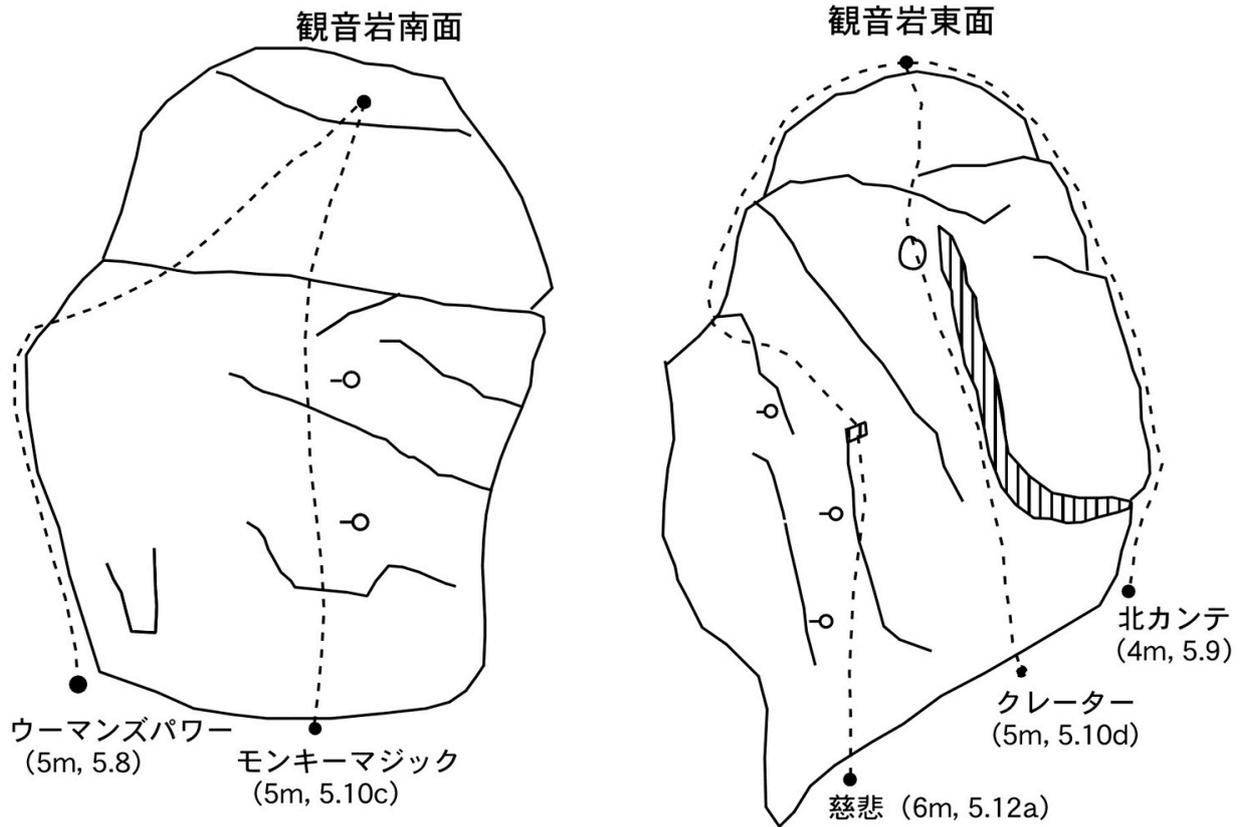
黒稜会が金峯山の開拓に着手した当初は、自分たちの限界グレード以下のラインを選んで登っていました。5.10 台の後半になると、「見つけて、ボルトを打って、すぐ完登」という具合にはいかなくなり、ムーブの解明とリハーサルに時間がかかるようになってきます。それでも少しずつ限界を押し上げて、イレブンの前半までは自力で開拓しましたが、さらに高いグレードになるとムーブが難しすぎて開拓は停滞します。停滞期脱出を促したのは、小山田大さんによるルートが存在でした。彼は、地元鹿児島の各地にハードルートを開拓していて、金峯山にもルートを残しています。ボルダーク課題の開拓・発表よりずっと以前から現在まで続いています。一般にはほとんど知られていません。

1996年に小山田さんによって道場の岩場に5.11を越える三本のルートが完成しています。その頃に「不動王(5.12b/c)」(本誌No.3で紹介)も試登されました。5.11後半以上のルートとはどういうものなのか、地元の岩場で体感できるので、難しすぎて敬遠していたラインにも可能性があることを理解できるようになりました。今号で紹介するのは、いずれもコンパクトでボルダークとしてもよい程度の岩です。開拓当時は数年後にボルダリングが流行するとは予想していませんでしたから、小さい岩でもロープを使ってリードするというスタイルになっています。



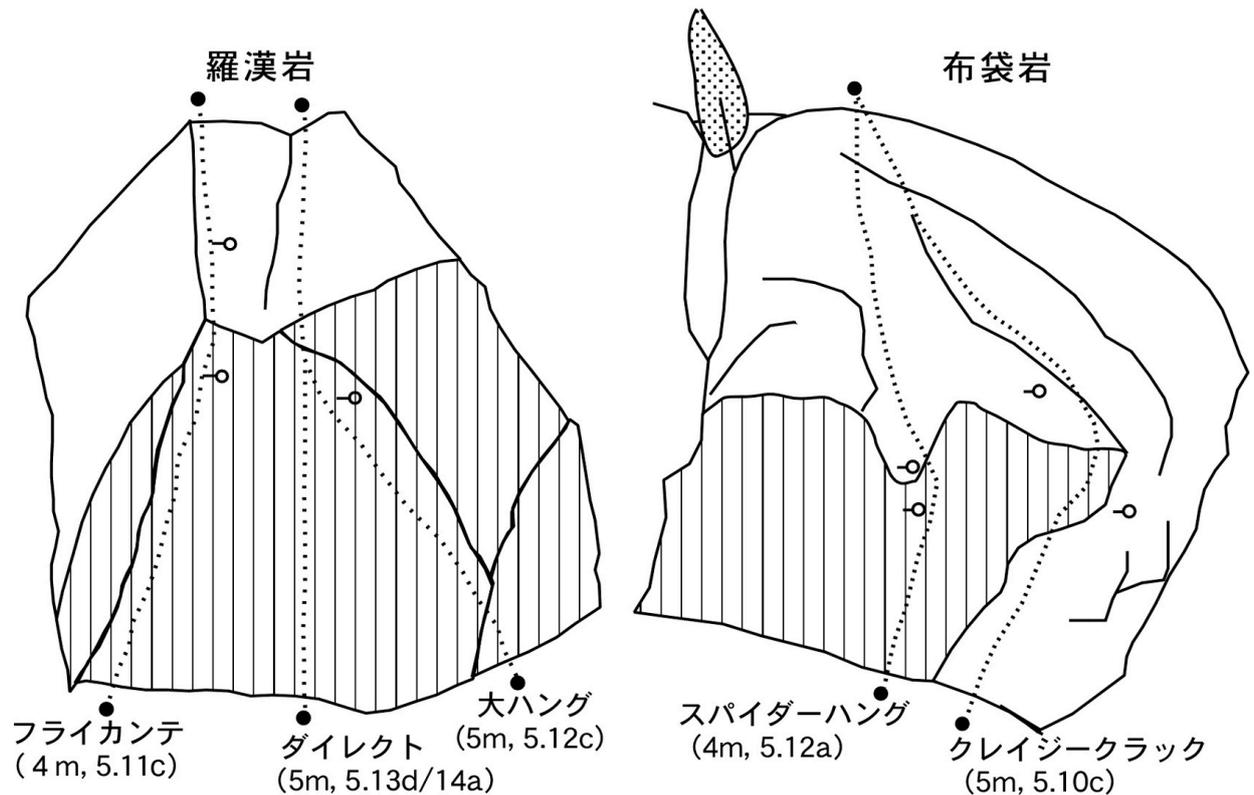
- 1 : 仁王岩, 2 : 観音岩, 3 : 弁天岩,  
4 : 不動岩, 5 : 地藏岩, 6 : 羅漢岩,  
7 : 布袋岩, 8 : 文殊岩, 9 : 彌勒岩,  
10 : 蓮華岩, 11 : 阿修羅岩, 12 : 薬師岩  
13 : 翁岩





不動岩の南面に正対したときに、左手に見える塔状の岩が「観音岩」です。観音岩にはリードできるラインが二本あります（上の図）。南面の「モンキーマジック(5.10c)」は、出だしが核心なので一本目のボルトにカラビナー一枚掛けでプリクリップしてトライしてください。小さいカチホールドを持った不安定な姿勢から頭上に見える大きいポケット状のガバにランジします。左足のつま先をうまく使うと高く飛べます。背が高い人なら地面からいきなり飛びつくこともできますが、その場合は 5.9 以下です。東面の「慈悲(5.12a)」は、黒稜会が自力で開拓した唯一の 12 のルートです。最初は、右後方にある丸い岩に乗って取り付けていました (5.11c/d) が、後に観音岩の本体だけを使って登るようにしました。核心部（前ページの写真）は三本目のボルト付近から左上するクラックの上部を右手でつかむ動作です。身体が大きい人には難しいかもしれません。南面の「ウーマンズパワー (5.8)」と東面の「クレーター (5.10d)」、「北カンテ (5.9)」はトップロープ課題です。

不動岩の北東には「羅漢岩」と「布袋岩」が並んでいます（次ページ上の図）。ここには小山田さんによって、我々ローカルクライマーの限界を遥かに越えるグレードのルートが拓かれています。羅漢岩の向かって左端にある大きく逆傾斜したカンテ状部分を登るラインが「フライカンテ (5.11c)」です。取り付け付近に蠅が飛んでいたことがこの名前の由来だと聞いています。左手に甘いアンダーホールド、右手に縦のエッジを持った状態から、右上にある芋を縦にくっつけたようなホールドに飛びつく動作が核心です。芋をつかんだ後の動作もかなり不安定です（次ページの写真）。フライカンテは、開拓された当初は 12d としていましたが、その後「ディー」は「ビー」の聞き間違い

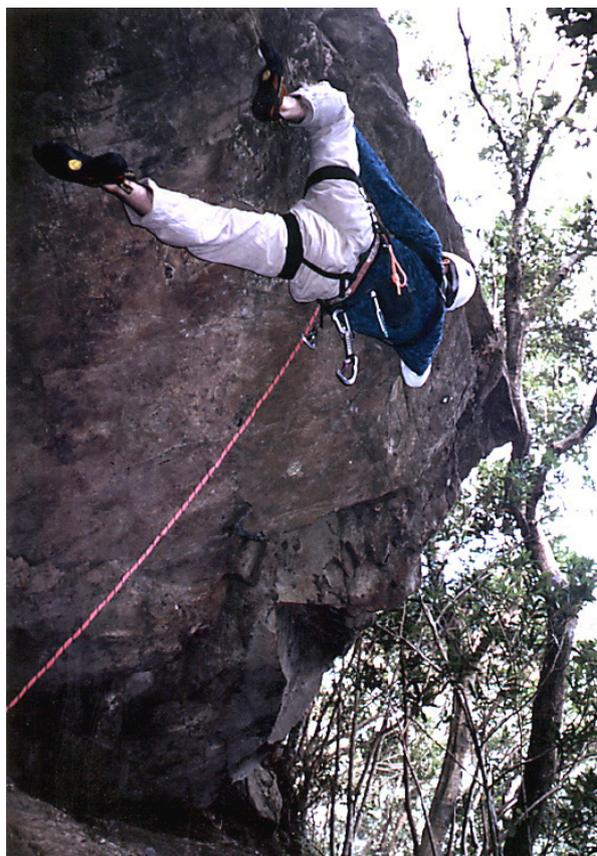


とされ、さらに最近、小山田さん本人が再登して11cに格下げになりました。その右の「大ハング (5.12c)」は、開拓された直後は13aとされていて、長い間金峯山で最難の一本でした。取り付こうとしても、地面から足を離せないの私には解説できません。これも再登されて12cになったと聞いています。2006年には羅漢岩の中央部をほぼ真直ぐに登る「ダイレクト (5.13d/14a)」が拓かれました。もちろん小山田さんによるものです。

布袋岩は羅漢岩に対面したときの右手側にあります。羅漢岩に寄りかかるように大きく逆傾斜したフェイスと、その右端を走るハンドクラックにルートがあります。かぶったフェイスの右寄りから取り付いて左斜め上方向に乗り越えるのが「スパイダーハング (5.12a)」です。出だしからの二手で右足をトゥフックして左手の遠いカチホールドを取りに行く動作が核心です。そのあと、左手・左足の二点支持で右手を高いリップに届かせなければなりません(次ページの写真)。ここで落ちると地面(岩棚)近くまで達してしまいます。クライマーがビレイヤー



にぶつかる、あるいはクライマーの体重でビレイヤーが持ち上げられて岩にぶつかる恐れがあります。安全な場所でビレイできるように、地面にボルトを打ってロープの流れを変えるようにしてあります。そのボルトのハンガーが時々なくなります。他の岩でも地面から手の届く位置にあるハンガーがなくなることがあります。クライマーが持ち去っているとは思いたくないのですが、一般の方が何かに使うとも思えず、困惑させられます。「ボルトが多すぎる。」という趣旨の批判なのかもしれません。布袋岩の右端にある「クレイジークラック(5.10d)」は黒稜会が開拓したものです。ハンドサイズのクラックの手前側の岩が右に大きく張り出したフレークのようになっています。ハンドジャムを決めて登ると見栄えがします。でも、自分も含めてレイバックで解決する人のほうが多いようです。



1996年当時、小山田さんは開拓したルート of 名称をはっきり示しませんでした。名前がないと不便なので地元クライマーが仮につけて呼んでいたものが、結局そのまま現在に至っています。ダイレクトだけはお本人の命名です。羅漢岩と布袋岩は小さい岩ですが、別の岩の上にかぶさるように乗っています。テラスの上から取り付くことになるので、ボルダーとして(ロープなしで)トライするとテラスから転げ落ちる恐れがあります。トップロープでトライするときも、振られて地面、立木、人に激突することがあるので注意してください。

発行：クライミングクラブ鹿児島黒稜会 (<http://www2.synapse.ne.jp/kokuryoukai/1-1.html>)

代表連絡先：三穂野善則 〒899-5656 始良郡始良町西始良 2-4-9 電話：0995-65-6210

編集担当：山本啓司 電子メール：a002\_hyam2@mac.com

本誌は複写自由です。複写物を再配布するときは、全ページを一括して配布してください。本誌の情報はクライミング行為の安全性を保証するものではありません。金峯山へのアクセスについては本誌の No. 1 を、岩場・ボルダーについてまとめた情報が必要な方は、「日本 100 岩場」第 5 巻、および「Rock & Snow」 No. 23 (山と溪谷社) をご覧ください。

スペシャルティコーヒーのカフェ・くらわんか

〒891-0144 鹿児島市下福元町 4 7 9 4-3

Tel&Fax: 099-261-3669

日曜休業 土曜日は月二回営業 (クライミングウォールあります)

<http://homepage.mac.com/hyam2/kurawanka/>

